

3大学と新協定 国際交流いっぱいのキャンパスに

国際交流センター長 バーチ・グロブナー (BIRCH, Gregory)

今春、新たにカルガリー大学（カナダ）、東方設計大学（台湾）、カトリック大学（米国）と学術交流協定を締結し、それに伴い、今年度はカナダ研修を新設、台湾研修を刷新し、各事業の維持・発展を図ります。

派遣事業では、一学期を海外の学校で過ごすセメスター留学と、夏休み（カナダ、台湾、韓国、モンゴル）と春休み（オーストラリア、カンボジア）の海外研修6本が中心です。セメスター

留学は春学期に6名が実施中で、秋学期には1名が渡航予定です。海外研修プログラムは「問いを持った旅、学びを創る旅」を掲げ、異文化理解能力（態度・知識・スキル）を養成することを目的とし、現地の人と積極的に関わる姿勢を身につけ、各研修で設



カナダの Bible School 生来校 (5/17)



ミズーリ大学生来校 (5/29-30)



漢陽女子大学生来校 (7/1-2)

定された問いの答えを探しながら現地で過ごすように設計されています。事前研修により訪問先の知識や海外渡航の心構えを得て、事後研修のレポートや成果発表により学びを深めます。

受入事業としては、姉妹校である韓国の漢陽（ハニャン）女子大学から、春学期3名、秋学期4名のセメスター留学生を受け入れます。留学生たちは清泉生とともに一学期間学びながら単位取得をめざし、さまざまな交流を経験します。漢陽の学生にもインターナショナルカフェと題して数回外国のお客様をお迎えする機会があります。これらはいずれも、学生が直接外国の方々と行動し、経験を共有できます。好奇心あふれる学生たちが積極的に交流し、視野を広げる機会にしてほしいと願っています。

派遣 〈セメスター留学レポート〉 多様性を生きる中から

国際コミュニケーション科2年

矢澤 舞香

オーストラリア（ケアンズ）へのセメスター留学を通して成長したことは、自分から行動を起こせるようになったことです。授業中は自分から意見を発することによって評価され、クラスが上がることも多いため、自己主張をすることはとても重要でした。とくに「話す」能力が大きく評価につながるため、自分の意見を言ったり、会話をしたりすることが自然にできるようになってきました。また、授業以外でも、出かけた時にわからないことがあれば、自分から人に尋ねることができるようになりました。本当に色々な国から留学生が集まっていたので、英語だけでなく、各国の文化や習慣も学び、一人一人の個性を理解するのを楽しみました。英語力は行く前よりも確実に身についたと感じているので、将来の職業に生かしていけるよう、これからも勉強には力を入れていきたいです。

（2018年9月～19年2月）



オーストラリアの空をダイビング

派遣 〈カンボジア研修レポート〉 保育者になるために

幼児教育科2年 宮坂 愛梨

私は将来保育者を目指しており、現地の孤児院の子どもたちと関わるなかで何か得られるものがあるのではないかと思い、参加しました。

日本の子どもと会話をする時とは違い、カンボジアの子どもたちとは英語で話さなければいけません。私はこれを貴重な体験であると考え、積極的に関わろうとしました。最初は会話が弾みませんでした。それでも子どもたちは私が話す英語を一生懸命聞き取ろうとしてくれました。また、私は言葉だけで交流しようとしていましたが、子どもたちは体を使って表現することが好きなのではないかと気づくと、次第に私も自然に英語が出てくるようになり、会話をするのがいつの間にか楽しくなっていました。いろいろな手段を使ってコミュニケーションすることが大切であるとわかり、「これは子どもに限ることではない。大人と関わる時も「縮だ」と実感しました。

（2019年2月21～27日）



孤児院の子どもたち